

令和8年（2026年）1月22日外部評価実施

庄内地域包括支援センター（南部圏域）

## 「評価結果の概要」

### センターが把握している圏域の特徴

【圏域の人口等】 令和7年12月1日現在

圏域人口：41,283人  
高齢者人口：13,451人  
高齢化率：32.6%

【圏域の地域特性】

庄内圏域は豊中市の南の端に位置しており、神崎川、旧猪名川、天竺川に囲まれた平地です。大阪都心から近いため、高度経済成長期に木造賃貸住宅などが集中して建築され、急速に市街化されました。大部分が密集市街地であり、海拔が低いため、大雨による洪水の危険性が高く、老朽化した木造家屋が多数点在していることから、家屋倒壊、火災延焼の危険性も高く、災害時に甚大な被害が発生する恐れがあります。近年は、古い木造住宅を解体して、新たにマンションや戸建住宅に建て替えるケースが増えており、幹線道路の整備が進み、大型商業施設の進出もあり、街並みが徐々に変わってきています。

庄内駅周辺には市場やスーパー、商店街等があり、人通りが多い地域です。南西部エリアは中小の工場が多い地域で、スーパーや商店が少なく、交通の便も悪いため、高齢者にとっては不便な地域です。北東部エリアには大阪音楽大学やオペラハウス、文化ホールなどがあり、文化的な側面も見られる地域です。南部千成校区にはファミリー向けの大型マンションが複数建っているため、若年層も多く高齢化率が低くなっています。

少子高齢化の進行が著しい庄内圏域では、学校再編が進んでおり、北部の庄内さくら学園に続き、R8年4月には南部の3つの小学校と1つの中学校が統合され、9年制の庄内よつば学園が開校予定です。

【医療・介護資源】

庄内圏域は高齢化率、介護認定率ともに高いため、他の圏域と比較して、介護保険事業所が多い地域です。医療機関は庄内駅周辺に集中しており、今年度新たに3つの医療機関（内科、整形外科、脳神経内科）が駅前に開業しました。独居で通院に課題を抱える高齢者が多いことから、送迎サービスを行うクリニックや訪問診療専門のクリニックも増えてきています。

## センターの取組方針や特徴

### 【センターの運営方針】

- ・公的な機関として、公平・公正・中立を遵守します。
- ・できるかぎり、現場に足を運び、実際に目で確かめたうえで支援を行います。
- ・利用者一人一人の価値観を尊重し、本人の意向に基づいた支援を行います。

### 【特に力を入れて活動している点】

- ・居宅介護支援事業所の減少が続くなか、庄内地域の介護支援専門員が、仕事にやりがいを感じながら、働き続けていただくために、情報提供、研修の実施、困りごとへの相談対応に取り組んでいます。
- ・介護保険制度の基本理念である「自立支援」について、包括職員が再度その意味を考え、介護予防の視点をふまえながら相談支援にあたるよう心がけています。

### 【活動の中での課題やその解決策】

- ・身寄りのない高齢者や、身寄りがあっても疎遠で支援を受けられない高齢者が増えているため、通院や服薬管理、金銭管理など様々な場面で支援が必要になっています。既存の制度や介護保険サービスでは十分に対応できないため、今後、民生委員や介護支援専門員、包括職員の負担が増えることが予測されます。

解決策としては

- ・成年後見制度や日常生活自立支援事業を適切なタイミングで活用します。
- ・費用負担が可能な高齢者には、有料の終身サポート事業の利用を促します。
- ・誰かひとりが抱え込まず、複数の支援者で協力しあいます。
- ・公的な支援制度の創設を行政に働きかけていきます。

## 総評

### 【特徴的な取組内容】

- ① 圏域内の、全ての居宅介護支援事業所を訪問し、圏域内の居宅介護支援事業所・介護支援専門員の現状把握や課題把握を行っています。把握した課題や現状をふまえた研修や啓発を行うことによって、必要性が高いニーズに即した取組みにつながられています。
- ② 通いの場やはつらつ教室等との支援・連携を通して、利用者に対して、介護予防のために適切な社会資源や支援先の情報提供ができており、実効性のある連携・後方支援が展開されています。

### 【さらなる質の向上の余地がある点】

- ① 他圏域と比べて高齢化率が高く、独居高齢者が多いことから、特に独居高齢者に対する支援強化に期待します。